

議 事 録 概略版

会議の名称	令和８年度 第１回 野洲市中学校部活動地域展開運営協議会
開催日時	令和８年７月１４日（火） １５時００分から１６時４５分まで
開催場所	野洲市役所 本館２階 庁議室

■ 出席者

委 員	野洲市長、野洲市教育長、野洲市スポーツ協会、野洲市スポーツ少年団、YASU ほぼえみクラブ、滋賀県中学校体育連盟、さざなみスポーツクラブ、文化芸術前コーディネーター
事務局	文化スポーツ振興課、学務課

■ 協議事項

（１）準備会総括について 【資料１】

【説明】

事務局より資料１をもとに説明した。概要は以下のとおり。

令和７年度の準備会では、部活動地域展開に向けて、以下の事項について整理を行った。

- ・全体像の共有 ・関係者間の情報共有 ・運営体制の検討 ・役割分担の整理
- ・指導者の確保 ・活動場所の確保 ・安全管理や保険制度 ・周知啓発

また、保護者・学校・地域が共通理解を持ちながら進めることの重要性を確認した。

【意見・質疑】

【委員】 準備会では課題整理が行われたとの説明であったが、その課題に対して今年度どのような取組を進めていくのかを示していくことも必要である。

【事務局】 今後の展開方針の中で説明していく。

【結果】 昨年度の準備会で整理された課題を共有し、今年度の協議の基礎とすることを確認した。

（２）今後の展開方針について 【資料２】

【説明】

事務局より資料２をもとに説明した。概要は以下のとおり。

国は「地域移行」から「地域展開」へ考え方を改めており、学校だけではなく、地域や関係団体と連携して活動を支える形へ移行しつつある。

野洲市では改革実行期間のフェーズ１として、以下の取組を進めていくこととしている。

- ・部活動指導員の増員 ・平日の活動時間の統一 ・指導者確保
- ・教員の兼職兼業の整理 ・認定地域クラブの枠組みづくり

【意見・質疑】

【委員】 認定地域クラブについて、認定基準や要件をどのように考えているのか。具体的な基準を整理する必要がある。

【事務局】 現時点で具体的な認定基準までは整理できていない。今後、専門部会を立ち上げ、国や県の考え方を参考に検討していく。

【委員】 指導者確保は重要な課題である。学校と生徒との関係だけでなく、地域との継続的な関係づくりも必要である。地域に根ざした人材を発掘しなければ、活動の継続性が確保できない。

【委員】 モデル的な取組を進めることは必要であるが、特定競技のやり方だけが標準にならないよう、様々な立場の意見を取り入れながら制度設計を進める必要がある。

【委員】 滋賀県では地域展開推進計画が策定されている。野洲市としても推進計画やロードマップを明示し、その上で議論を行うべきである。

【事務局】 ロードマップ案は作成している。今後さらに具体化しながら検討を進める。

【結果】 休日活動を中心に地域展開を進める方向性について共有するとともに、認定地域クラブの制度設計やロードマップの整理が今後の課題であることを確認した。

(3) 現状把握と課題整理について 【資料3】

【説明】

事務局より資料3をもとに説明した。野洲市では急激な生徒数減少は見られないが、以下の事項が主な課題であると説明した。

- ①指導者確保 ②財源・費用負担 ③理解・合意形成 ④学校・地域・行政の連携体制
⑤安全管理や施設利用

【意見・質疑】

【委員】 部活動を今後どのような形で残していくのが重要である。地域展開を進めながらも、地域で担えない競技についてどのように考えていくのかを整理する必要がある。

【委員】 放課後活動と部活動の位置付けも整理が必要である。青少年健全育成という視点を含めて議論すべきである。

【委員】 現場の教員の多くは、教員の働き方改革の観点から、休日部活動の地域展開を進める必要があると考えている。また、部活動指導員の配置は増えているが十分とは言えず、更なる拡充が必要である。

【委員】 できる競技から進めることは理解できるが、できない競技をどのように支えるのかについても考えていく必要がある。

【結果】 指導者確保や財源確保を含めた持続可能な仕組みづくりが必要であることを確認した。

(4) 具体的な取組について 【資料4】

【説明】

事務局より、以下の事例について説明した。

- ・サッカー部（認定地域クラブ化）
- ・ハンドボール部（協会連携）

・ラグビー部（スポーツ少年団連携）

サッカーについては「YASU City Football Club」として総合型地域スポーツクラブのサークル事業として活動し、地域指導者と教員が連携して運営する構想が紹介された。

【意見・質疑】

【委員】 テニスやバレーボール、バドミントンなど、すでに地域で活動している団体についても整理し、地域展開の資源として位置付けるべきである。

【委員】 地域団体の多くはボランティアで活動している。将来的に委託や受け皿として機能してもらうためには、財源の議論が欠かせない。

【委員】 指導者への報酬についても整理が必要である。一方で報酬を受け取ることで責任が重くなるため、あえてボランティアとして関わりたい人もいる。様々な関わり方を認める制度が必要ではないか。

【委員】 吹奏楽など文化部活動については、専門指導者の報酬水準が現在想定されている単価では対応できない場合がある。スポーツとは別の仕組みも検討する必要がある。

【結果】 複数の競技における取組事例を共有するとともに、競技特性に応じた制度設計の必要性を確認した。

（５）今後の取組について 【資料５】

【説明】

事務局より、以下の事項について説明した。

- ①専門部会の設置 ②認定地域クラブ制度の検討 ③実証事業の実施
- ④指導者確保・兼職兼業制度の整理 ⑤環境整備

【意見・質疑】

【委員】 地域クラブの責任の所在や安全管理について整理が必要である。指導者や運営団体の責任範囲を明確にしていくべきである。

【委員】 学校施設を地域クラブが利用する場合のルールづくりが必要である。施設・備品管理や学校開放との関係整理も必要ではないか。

【委員】 地域クラブと中体連大会参加との関係についても整理していく必要がある。地域クラブ所属生徒が増える中で、今後の大会運営のあり方も検討課題となる。

【結果】 具体的な課題整理を進めるため、専門部会設置に向けた検討を進めることを確認した。

■ その他

委員から、以下の意見があった。

【委員】 指導者の確保と育成を継続的に進める必要があること。

【委員】 スポーツ少年団や地域団体への情報発信を充実させる必要があること。

【委員】 子どもたちの活動機会の保障を最優先に考えるべきであること。

【委員】 地域展開はスポーツ振興だけでなく地域づくりやまちづくりにもつながる取組であること。

■ 次回開催

開催予定日	令和8年10月15日（木）
議題（予定）	専門部会の設置等について協議を行う予定。

■ 提出された主な資料

- ・ 資料1：準備会総括
- ・ 資料2：今後の展開方針
- ・ 資料3：現状把握と課題整理
- ・ 資料4：具体的な取り組み
- ・ 資料5：今後の取り組み